

生体調節研究所における国際化戦略

国際交流委員会

生体調節研究所 林(高木) 朗 子

私たち研究所の本務は、高水準の研究成果を世界に発信し、社会へ還元することです。最先端研究を効率的に実行・発信・知財化することは、国際通用性を前提としているため、グローバル化は避けて通れない必須戦略と位置付けております。このような私たちの取り組みを、研究、教育、人的交流、協定などに分けて紹介したいと思います。

まず、私たちの本務である研究に関してですが、国際化を推進するために、英語のホームページの完備はもちろんのこと、この英語ホームページには、教授選考などの公募や国際研究の公募なども掲載され、Visibility の高いホームページ運営を心がけております。一例をあげると、本研究所は第3期共同利用・共同研究拠点研究として文科省認可された拠点研究所であり、本研究所の保持する解析技術・バイオリソースを基盤にした共同研究を国内外から広く受け入れること、本分野における中核的役割を果たすとともに、さらなる研究の発展を計ることが使命です。実際に平成26年より合計18課題の外国研究者を共同利用・共同研究課題として採択し、国際共同研究に必要な研究経費（消耗品費及び旅費）を本研究所で支出しており、質の高い国際共同研究をバックアップしております。さらに、私たちの研究所の活動を内外に示すための国際シンポジウムは隔年で開催され、海外の著名な研究者や本邦の第一線で活躍する研究者を招聘し、2日間に渡る国際シンポジウムを行っております。講演・質疑応答すべて英語で活発に議論が展開されるさまは、群馬という片田舎にあってもグローバル化が十分なレベルで実践できることを肌で感じる事が出来る機会であり、若手育成にも大きく貢献していると考えています。実際に、国際シンポジウムの翌日には若手 Retreat と称して、招聘外国研究者と研究所内の教員、学生などが深夜まで交流する機会を伊香保研修所で行い、Ikaho Hot Spring という地の利も手伝い、Hot な国際交流を推進しております。

教育に関してですが、研究所は教員数30名という比較的小規模な組織でありながら、過去5年間の博士後期課程留学生だけで25名の受け入れがあります。上述のように、研究所の多くの研究者が英語によるコミュニケーションを日常的に行っており、このような国際化の基盤が、多くの留学生の受け入れおよびその後の充実した研究活動に有機的につながっているのだと考えております。このような国際化の活動は、個人研究者のつながりだけで推進されることもありますが、組織全体として合理的・戦略的フレームワークのもと、国際交流協定として効率化される必要もあります。現在研究所では、アジア圏の大学を中心に4件の学部間協定を締結しており、今後、このような協定校は益々増加していくことと思います。

最後に繰り返しになりますが、私たちの本務は世界最先端の研究を世界に先駆けて発信し、それが医学研究として臨床、さらには社会へ還元することです。そのためには、研究力の向上と国際化とは

両輪をなすものであり、どちらも精力的に取り組む予定です。